

一般財団法人毎日書道会

令和2年度の実施事業報告

【1】書の展覧会事業

■ 毎日書道展

【毎日書道展本展】

毎日書道展は、令和2年度に第72回を迎える予定だったが、コロナ禍のため作品募集前に開催を1年延期することを機関決定し、東京展をはじめ全国10会場での本展展覧会活動は行わなかった。

代替措置として、毎日新聞紙上やインターネットを利用したシリーズ企画「#書道を止めるな『書の時間』」を計画。第1弾は財団役員34人の出品作品による展覧会（7月14日～8月3日、アートサロン毎日）を開催し、毎日新聞紙上（6月27日付朝刊）とホームページ上でも展開して好評を得た。

第2弾は、本展への一般公募の方を対象に毎日新聞紙上での公募展を企画した。全国から508点の応募があり、うち29点の優秀作品を選出。毎日新聞紙上（10月16日付朝刊）とホームページ上でも発表し、広く顕彰した。

また、「書の時間」の番外編として、書家、画家として高名な田中親美一門の作品を集めた展覧会をアートサロン毎日で開催（9月16日～30日）し、多くの鑑賞者を受け入れた。

【毎日書道顕彰】

書道に関する芸術・学術・教育・啓蒙の振興に著しく貢献した個人、グループを顕彰する「毎日書道顕彰」は、令和2年は芸術部門で大石千世、榛葉壽鶴の両氏をそれぞれ選出した。顕彰式は令和3年度の本展開催時に延期した。

【中国へ書の研修視察団】

第72回毎日書道展を1年延期したため、成績優秀者から選ぶ派遣候補者を選出できなかったうえ、日中両国の新型コロナの感染状況に鑑み、派遣を中止した。

■ 国際高校生選抜書展

「第29回国際高校生選抜書展」はコロナ禍にもかかわらず、国内から11、859点、海外から312点（留学生を含め6カ国・地域）の計12、171

点（前年比1、735点減）の応募があった。このうち、入選以上の2、097点を令和3年2月17日から2月21日まで大阪市立美術館で展示した。団体優勝は徳島県立名西高等学校だった。表彰式はコロナ禍のため中止し、郵送などで対応した。

■ 2021現代の書 新春展

「2021現代の書 新春展」は令和3年1月5日～9日、東京銀座・和光ホールに幹部24人の作品を展示して開催した。同・セントラルミュージアム銀座で開催している審査会員以上を選考対象とした選抜100人展は、本展の中止に伴い出品者が選出できなかったため中止した。

■ 2021毎日書道展新会員作家展

本展の1年延期によって会員への昇格者がなかったため、アートサロン毎日で毎春開いている「毎日書道展新会員作家展」は中止した。

■ 2021毎日チャリティー書展

毎日書道展の賛助会員による小品頒布方式の「毎日チャリティー書展」は、令和3年度から募金形式に変更することが機関決定された。このため、コロナ対策も考慮して令和3年1月の開催は見送った。

■ 地域書道展の助成・協力

令和3年1月に「毎日現代書関西代表作家展」（大阪市）が開催された。本財団として、同展を筆頭に秋田、高知など各地域の書道展覧会の開催を支援、協力し、国内各地での書道文化の発展、普及に努めた。

■ 海外展

中国、韓国、シンガポールなど約20か国・地域の書道団体と隔年開催している「国際書法交流大展」は、令和2年4月に北京で開催予定だったが、コロナ禍のため延期となり、令和3年4月時点で開催時期は未定。

【2】出版・広報

■ 出版物

【第72回毎日書道展役員、入賞、入選者名鑑】

令和3年7月に発行を延期。

【第72回毎日書道展入賞作品集】

令和3年7月に発行を延期。

【第72回毎日書道展役員作品集】

令和3年12月に発行を延期。

【第72回毎日書道展記録DVD】

第72回展を1年延期したため、令和3年に記録DVDを製作し、各会場で無料放映する予定。

■ 会報発行

毎日書道会の事業活動の周知、広報用に「書道会報」を年4回発行した。賛助会員全員と書道関係者らに無料配布した。

令和2年4月	48,000部	(16頁)
7月	17,000部	(8頁)
9月	12,000部	(8頁)
12月	12,000部	(8頁)

■ 資料提供

毎日書道展の役員作家らの活動が掲載された各地の新聞記事のスクラップ冊子（タイトルは「墨彩風信」）は年4回制作し、賛助会員、書道関係者らに無料配布した。

【3】アートサロン毎日の運営

アートサロン毎日はコロナ禍のため令和2年度に利用者が急減し、年間5団体が延べ14週利用して個展やグループ展等を開催した。このうち、「書の時間」の田中親美一門展では、毎日書道図書館の収蔵品も展示した。なお、空き時間の多くは毎日書道会内部の各種会議、展覧会の準備作業場などに使用された。

【4】毎日書道図書館の運営

「毎日書道図書館」の利用者は、コロナ禍の影響で令和2年度に275人（前年度比396人減）に減少した。蔵書は寄贈などにより、約1,600点増の19,250点となった。